

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成22年度 国土交通大臣賞 受賞	受賞者名
	阪急バス株式会社 株式会社 阪急阪神エムテック 株式会社 阪急阪神ホテルズ 株式会社 いいなダイニング
	所在地
	大阪府豊中市、大阪府茨木市、大阪府大阪市
受賞テーマ	
使用済み食用油を利用したバイオディーゼル燃料100%バスの運行	
1. 活動継続 あり	
以下の路線で継続して運行を行っている。 (3 両)	
・ 吹田摂津線（JR 千里丘～柱本営業所前） 運行開始:2010 年 3 月	
・ 池田市内線（池田～阪急石橋～石橋北口～池田） 運行開始:2010 年 10 月	
・ 茨木美穂ヶ丘線（千里中央～阪大本部前～茨木美穂ヶ丘） 運行開始:2011 年 9 月	
	
	池田市内線で運行しているバイオディーゼル燃料バス
2. 活動の広がり あり	
受賞時運行の 2 両に加え、2010 年 10 月より大阪府池田市内の小学校や給食センターで集められた使用済み食用油を利用したバイオディーゼル燃料を池田市内線を運行する車両 1 両で使用し、市民・自治体とバス事業者が連携して環境施策に取り組んでいる。	
2011 年 9 月からはグループ会社である阪急不動産㈱が新規に分譲するマンションの入居者から集めた使用済み食用油を茨木美穂ヶ丘線を運行する車両 1 両で使用している。	
3. 活動の進化 あり	
従前はグループ企業間の取り組みであったが、池田市においては廃油回収活動が一般市民参加のエコ活動として定着しており、各種広報活動や地域のイベントへの参加を通じて、更に市民の環境意識の向上を図っている。	
また、阪急不動産㈱との取り組みでは使用済み天ぷら油を回収するだけでなく、馴染みのある地元を走るバスの燃料として利用することで、より身近に活動の貢献を実感できるようにし、回収への参加意欲や環境配慮行動への意識を高めていることが評価され、2012 年度グッドデザイン賞を阪急不動産㈱と共同で受賞した。	
2016 年度の回収量は約 100 千ℓ、使用実績は約 33 千ℓとなり、これにより 86 トンの CO ₂ が削減されることになる。	
4. 今後の計画	
Nox・PM 法の規制強化に伴い車両構造にも変化が生じており、特に近年導入の車両に標準的に装備されている排ガス除去装置に起因する不具合発生の可能性を燃料業者より指摘されていることから、現行車両以外での導入は難しい状況となっており、運行車両の経年劣化に伴い、活動の継続が困難になることが予想される。	
3R 活動の継続に向けて新たな施策を検討していく。	

【表彰概要】

従業員食堂等から排出される使用済み食用油の有効利用、及び軽油の燃焼によって排出されるCO₂の抑制を目的として、2008年12月から近畿の民間バス事業者として初めて、使用済み食用油を利用したバイオディーゼル燃料100%バスを運行している。

使用済み食用油は、阪急バス本社及び営業所の従業員食堂の他、グループ会社の阪急阪神第一ホテルグループの一部ホテルや惣菜店舗、工場等から排出したものを回収・利用している。年間の回収量は約35,000ℓで、この内18,000ℓをバス燃料として利用したことにより、年間約47トンのCO₂が削減されることになる。

バイオディーゼル燃料バスの運行に当たっては、安全運行の基本となる整備について、過去の社会実験等の経験からバイオディーゼル燃料に精通している子会社整備会社に委託し、阪急電鉄や阪急阪神ホールディングスの情報発信力を利用した啓発活動、情報の提供を行う等、グループ一体となった取り組みを行った。

また、バイオディーゼル燃料バス車両を運行しない土休日を利用して、地域の環境学習、環境イベントに参加することにより、地域児童等を対象にリサイクルの推進、環境活動の啓発を行っている。



実物のバイオディーゼル燃料バスを使った環境学習